

# 「天空杯少年少女空手道交流錬成大会競技規程」

## (形競技)

1. 競技方式は赤、青のトーナメント、フラッグ方式を採用。(個人戦は予選、決勝とも審判は3人制)
2. 個人戦は各コート決勝戦まで行う。
3. 幼児・小中学生有級の部の予選はすべて基本形、平安、ピンアン、撃砕の中から選んで演武する。  
なお、同じ形を1回戦から決勝戦まで演武しても良い。
4. 小中学生有段(初段補含む)の部は予選、決勝戦ともに指定形、自由形から選んでもよい。  
もちろん基本形、平安、ピンアン、撃砕から選んでも良い。ただし、決勝戦は予選で使用した形を使用してはならない。なお、全クラスで3位決定戦は予選と同一形でも良い。
5. 団体戦は各道場から5チームまでエントリー可とする。1チーム3人制。チーム編成は小中学生、男女、有級・有段混合でチーム編成しても良い。
6. 団体戦は小中学生有級の部と同様、予選は基本形、平安、ピンアン、撃砕の中から選んで演武し、同じ形で1回戦から準決勝戦まで演武しても良い。ただし、決勝戦は予選で使用した形を演武してはならない。
7. 団体戦の決勝戦は指定形または自由形の使用可。
8. 団体戦は「決勝残し」とし、決勝戦は中央コートにて行う。(予選は審判3人制、決勝は審判5人制)
9. 選手は礼節を重んじ、入退場の際は審判、対戦相手にきちんと礼をすること。

## (組手競技)

1. 競技方式は赤、青のトーナメント方式を採用。審判編成は1コート5名、監査役1名。
2. 組手競技の勝敗は幼児の部のみ4ポイント先取、小中学生の部は6ポイント先取とする。
3. ポイントの参考例は、突き技が上・中段とも1ポイント。蹴り技は中段が2ポイント、上段蹴りが3ポイント。相手を足払い等で倒した技からの突き技は3ポイント。
4. 個人戦は各クラス決勝戦まで行う。※団体組手が最終種目とする。
5. 競技時間は幼児の部が予選～決勝戦まで1分のランニングタイムとする。  
小学生の部は予選～決勝戦まで1分のフルタイムで行う。中学生については、男女共予選及び3位決定戦は1分30秒のフルタイム、決勝戦は2分のフルタイムとする。※団体戦の各クラスにおいても同様とする。
6. 各安全防具は全空連認定のノンコンタクト用を採用。それ以外は認めない。
7. 本大会は10カウントルールは採用しない。よって接触によるダウンの場合は敏速に対応する。
8. 本大会は倒れた、もしくは倒した相手に対する「蹴り」による攻撃は全て危険行為とし、蹴り技が決まっても反則(カテゴリー2、接触した場合はカテゴリー1)とする。(※突きはポイントとみなす)
9. カテゴリー1、2の反則については審判員は厳しく対処し、事故の未然防止に心がける。
10. 個人戦は再試合は行わない。ただし、団体戦は「引き分けが」あり、団体戦終了後、勝敗が同点であれば代表戦を行う。その場合の試合時間は1分間フルタイム。なおその試合で勝敗がつかない場合はその終了時点での攻防、展開等を考慮し、勝敗を決する。

- 1 1. 団体戦は3人制（先鋒・中堅・大将）とし、先鋒が小学3・4年生、中堅が同5・6年生、大将が中学生で編成すること。なお、大将（中学生）は学年をとわない。小中学生とも男女混合を認めるが、全て男子、女子で編成しても良い。（例：先鋒、小学3・4年男子、中堅、小学5・6年女子、大将、中学男子（女子）など）
- 1 2. 団体戦は各道場から5チームまでエントリー可とする。
- 1 3. 団体戦の競技規定は各クラスの個人競技規定に準ずる。ただし、詳細は審判長に一任する。
- 1 4. 団体戦の勝敗については2勝したチームが勝利とし、引き分けの場合は代表決定戦にて勝敗を決する。ポイントの合計による勝敗は本大会では行わない。
- 1 5. 選手は礼節を重んじ、入退場の際は、対戦相手にきちんと礼をすること。

※ 全競技、（公財）全日本空手道連盟審判規定に準じ、一部本大会競技規定を採用します。  
組手競技は平成25年4月から公式戦に導入される新ルールにて運用します。

※ ミサंगाなど装飾品をつけての試合参加は不可。カラーTシャツ着用も不可。ただし女子は白・無地は可とする。

男子のTシャツ着用は白、無地も不可。ただし、なんらかの理由がある場合（身体的理由など）は、事前に審判長まで申告し許可を得た場合は着用を認める。なお、競技判定については審判長、コート長、審判員に一任し判定についての抗議などは一切認めません。